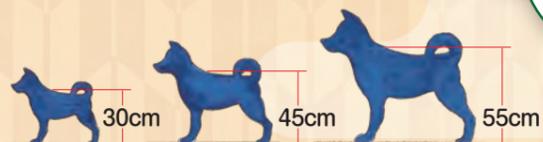


## 江戸時代にはどんなイヌがいたのかな？



頭書増補訓蒙図彙大成(国立国会図書館蔵)

江戸時代の百科事典。イヌは3種類に分類されています。「犬」は一般的なイヌ、「獒犬」は背の高い西洋犬、「獵犬」は毛の長いイヌのこと。



### 江戸時代のイヌの大きさ

イヌの肩までの高さを体高と言います。江戸時代の遺跡から出土したイヌの骨から体高を推定すると、体高30cmほどの狎のような小さなイヌや体高55cmほどの大きなイヌまでいたことがわかりました。

骨を見てもどんな毛色をしたイヌかはわからんが、骨を測ると大きさがわかるんじゃ。



今、みんなのまわりにはいるイヌはどれくらいの大きさかな？

図鑑などで体高を調べてみよう！



## ネコはかわいいだけではない!?



### ★歌川芳員「百種怪談妖物双六」

化け物を題材にした双六です。猫またと呼ばれるネコの化け物が踊る姿が描かれています。



人びとにとってネコは

かわいいだけではありませんでした。夜行性であることや、瞳の形が明るさや時刻で変わることなどから、不思議な生き物と考えられ、いくつもの化け猫伝説が生まれました。

掲載した資料のうち★印は太田記念美術館蔵、☆印は個人蔵です。★印や☆印、所蔵先が書いていないものは港郷土資料館蔵です。

## 港郷土資料館利用のご案内

開館時間：午前9時～午後5時(さわれる展示室は火・金・土の午後0時30分～4時30分)

休館日：日曜日・祝日・毎月第3木曜日・年末年始・特別整理期間

交通：JR「田町」駅下車徒歩5分

都営地下鉄三田線または浅草線「三田」駅下車(A3出口)徒歩2分

都営バス「田町駅前」停留所下車徒歩2分

港区コミュニティバス(ちいばす)「田町駅前」停留所下車徒歩2分

「田町駅西口」停留所下車徒歩3分



## 港区立 港郷土資料館へ行ってみよう! 第14号

編集・発行 港区立港郷土資料館 〒108-0014 東京都港区芝5-28-4 ☎03(3452)4966

http://www.lib.city.minato.tokyo.jp/muse/

『港区立港郷土資料館へ行ってみよう!』のバックナンバーは、ホームページでご覧いただけます。

イラスト：横山真弥 デザイン・印刷：文洋社

平成29(2017)年3月15日発行

港区は、みどりの保全とごみの減量に努めています。この印刷物は、古紙を利用した再生紙を使用しています。



刊行物発行番号 28264-7541

港区立

# 港郷土資料館

## 行ってみよう!

第14号



### 江戸時代のイヌとネコ



イヌやネコはとても身近な動物ね。昔の人たちはイヌやネコとどのように関わっていたのかしら？

今と同じようにペットとしてかわいがっていたのかな？



港郷土資料館



## 描かれたイヌとネコ

江戸時代の書物や絵画にイヌやネコの姿がさまざまに描かれています。イヌやネコが江戸時代の人びとの目にどのように映っていたのか、そしてどのような場面に描かれていたのか見てみましょう。



江戸時代の港区域には、  
武家屋敷や町屋が  
たくさん  
あったのじゃ。

## 暮らしの中のイヌとネコ

大名などが暮らす武家屋敷や町人が暮らす町屋の跡を発掘調査すると、さまざまな生活道具が出土します。その中にはイヌやネコの形をした土人形も見られます。また、イヌやネコの骨やお墓などが見つかることもあります。これらのものから、人びととイヌやネコとの関わりを考えてみましょう。

## イヌ



### ★歌川国芳 「東都名所 両国柳ばし」

男の人と女の方は恐ろしい大きな野良犬に驚いているのかな？



### 「絵本世都之時」(複製)

鷹を使った狩り(鷹狩)のようす。優秀なイヌが狩りの大事な役目を担いました。



### 歌川広重 「名所江戸百景 高輪うしまち」

スイカの皮、わらじと一緒に子犬が描かれています。



### ★歌川国芳 「御奥乃弾初」

身分の高い女の人が小型犬の狎に琴の音を聞かせています。狎は座布団の上に座り、首のまわりに飾りをつけてもらっています。

## ネコ



江戸時代の  
ネコもこたつで  
丸くなる  
のじゃな。



### ★鈴木春信「水仙花」

温かいこたつの上で、気持ちよさそうに眠るネコ。



### ★二代歌川国貞「花盛土農工商」

お米をといた「のり」を使った羽子板をネズミにかじられないようにネコが飼われていました。



### ★歌川国芳 「流行猫の曲鞠」

人の姿をしたネコが、まりを使ったさまざまな曲芸を見せています。



### ★月岡芳年「猫鼠合戦」

上の段には袋に頭をつっこむネコをからかうネズミ、下の段にはその仕返しなのか、ネズミを追うネコが描かれています。



### ★「鼠除猫」

怖い顔をしたネコがネズミを取り押さえています。これは明治時代の絵ですが、ネズミよけのネコの絵は江戸時代にもありました。



### イヌの頭蓋骨 (左:芝神明町町屋跡遺跡 中央:薩摩鹿兒島藩島津家屋敷跡第2遺跡)

骨の大きさから、さまざまなサイズのイヌがいたことがわかります。



### イヌの墓(白金館址遺跡)

三途の川を渡るための銭と一緒に埋められていました。



### 刃物傷のあるイヌの上腕骨(部分) (港区No.19遺跡)

刃物傷は人びとが食べたり鷹狩の鷹のえさになったイヌがいた証拠です。ネコの骨にも刃物傷が見られるものがあります。

江戸時代の人びととイヌやネコとの関わりはさまざまじゃな。



### ★歌川広重「浄る町繁花の図」

さまざまな物売りが描かれた絵です。左上でネコの土人形を売っています。



港郷土資料館に展示されている土人形やイヌの骨を見に行ってみよう!

### ネコとイヌの土人形 (天徳寺寺域第3遺跡)

土人形は民間信仰や節句に関わるものが多いと言われています。

